

福中通信 2023

4月号



令和5年4月19日
発行責任者 岡澤 洋

自ら進んで挨拶 勉強 体力づくり

新入生を迎え、19名で福井中学校の新しい1年が始まりました。中学校の3年間は、心も身体も著しい成長が見られる時期です。お互いが相手の良い面を認め合い尊重し合って、福井中学校を安心できる場、いろいろなことに挑戦できる場にしていきましょう。

本年度の学校の方針を掲載します。生徒、先生みんなで素敵な学校を作っていきます。

福井中学校の校訓

- 自主…「はい。やります。」進んでやれば、成果は2倍、疲れは半分
- 誠実…「ありがとう」「ごめんなさい」「お世話になります」を言葉にしよう
発する言葉はブーメラン。真心には真心が返ってきます
- 協同…「いっしょにやろう」 みんなでやれば楽しさ倍増

めざす学校像

- ・明るく楽しく、誇りの持てる学校
学校が楽しい。福井中学校で学んで良かったと思える学校をめざします。
- ・ともに学び合い、ともに鍛え合い、ともに伸び合う学校
わかった。できなかったことができるようになった。成長をともに認め合い、向上していける学校をめざします。
- ・心を込めて磨き上げた美しい学校
清掃が行き届いた校舎。温かな言葉が響く学校をめざします。

●入学おめでとうございます

4月11日、PTA会長様、福井小学校長様のご臨席を賜り、令和5年度入学式が挙行されました。新入生6名の元気な返事が会場に響き、新入生代表の宣誓からは、新しい生活への意気込みと期待が伝わってきました。新入生のみなさん、これから福井中学校でたくさん学び、多くの経験を積んでいきましょう。

●転入職員を紹介します

S 先生

このたび、お隣の椿町中学校から来ました「s」と申します。今年は全学年の英語と体育を担当します。時には全力で学び、時には全力で楽しみ、何事にも一丸となって全力で過ごせる楽しい1年間にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

M 教頭

徳島県立博物館から、この度の教職員定期異動で参りました。2度目の福井中学校の勤務となります。教科は、技術です。前回の勤務時に手作りした、新聞の閲覧台・玄関の福井中学校人権宣言の掲示など美しく残されており、とてもうれしく思っています。心優しい、みなさんとまた同じときをすごさせてもらえることに感謝しております。教頭として、学校生活を精一杯サポートできるようがんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

O 校長

この度の定期異動により、海部郡穴喰中学校から参りました。2年前までこの福井の町を通り抜けて、おとなりの椿町中学校に3年間通っていました。少し懐かしい感じと、とても新鮮な期待感に、毎日わくわくしながら過ごしています。「明るく楽しく、誇りの持てる学校」となるよう、生徒・教職員全員で取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

●家庭訪問・授業参観のご案内

家庭訪問 4月21日・24日・25日

授業参観 4月29日(土) 13:25～

よろしくお願いいたします。



令和5年4月11日 入学式

「名前」

福島県・須賀川市立第二中学校三年 須田琴菜

結婚したらなんていう名前になりたい？中学生女子のおしゃべりはいつも夢に満ちた恋や結婚への憧れが散りばめられている。「神宮寺、なんてかっこいいよね。」
「私は好きな人の名前なら何でも！」あまり近寄りたくない話題なのに、「琴菜は？将来どんな名前になりたい？」聞かれてしまった。うーん。言い淀む私に一人が気を使ったように、琴菜はお家を継ぐんだよね。お婿さんをもらうから名前はそのままなんだよね、と言う。あ、そうなんだ。いいね、大人になってもSNSで探しやすいね、と誰かが言い、みんなが笑った。私もほっとしながら一緒に笑う。

私の家は四百年以上続く神社の神主の家系で、その職を継ぐのは私の小さいころからの夢だ。家族も地域の人たちもそれを喜んでくれているようで、それは私にとっても嬉しいことだ。しかし、時々ひっかかる言葉に出会うことがある。例えばさっきの「お婿さんをもらう」もそう。確かに私の家はずっと「神職の須田家」で私には姉妹しかいないけれど、私が神社を守っていくのに「お婿さん」は必要なのだろうか？

新聞やニュースで、「選択的夫婦別姓」という言葉を聞くことが多くなった。夫婦は同姓と定めている今の法律下では、姓を変える側だけが多大な不利益を被ってしまうので議論が進んでいるらしい。日本には慣習的に女性が自分の姓を男性側に変えることが圧倒的に多く、その割合は96パーセント。だからこれは女性の人権問題だとする声が多い。だけど私には、残りの4パーセントの数字が心にのしかかる。私は将来の夢を目指す限り、一緒になってくれる人に、たった4パーセントの男性しか被らない不利益をお願いしなければならないのだろうか。考え出すと将来を思い描くことが少し嫌になってしまう。同じ悩みを抱えている人はいないのかと調べてみるといろんな意見、解決すべき様々な課題があった。旧姓の通称使用の限界。子の姓決定問題。婚姻に際し選ぶ姓は夫側でも妻側でも構わないのだからその点において公平だという主張もわかった。それでもなお私が将来の伴侶にどこか遠慮をしてしまうのには、もう一つ理由がある。

神社は母の実家で、父が姓を変えた。レアな4パーセントの方だ。父に、名前の変更は大変ではなかったか、と訊ねたことがある。「ありとあらゆる名義変更。友人や知り合いへの通知。親の説得、自己喪失感。確かに大変だったけど、それよりキツイのはね、」

父は少し間をおいて、お婿さんっていうレッテルを貼られることだよ。と言った。お父さんとお母さんは、ごく当たり前に、二人で独立した戸籍を作ったんだよ。その時に妻の姓を選んだ。ただそれだけなんだけど。「でもお父さんはお婿さんなんてしょ？」という私に父は急に真面目な顔で言った。「琴菜、覚えておきなさい。結婚するすべての男性は花婿で、すべての女性は花嫁だ。その意味以外の婿、嫁という制度は今の日本には存在しない。婿に来た、とか嫁にもらった、という言い方をきくかもしれないけど、それは誰かを知らず知らずに貶め、不快にさせているかもしれないから、琴菜はよく気を付けようね。」はっとした。「お嫁さん」は私たちの日常でもよく聞く言葉だ。近所のおじさんは、ウチの嫁さんが、といつも言っている。父の言うことを考えると、それすらも先入観と色眼鏡を通した言葉になってしまう。

以来、ずっと婿や嫁という言葉について私は考え続けている。古い日本の家父長制度の慣習だった嫁入り、婿入りの概念が令和の今も残っている。私の住むような田舎の地方では今もなお、苗字を変えた男性は「お婿さんなんですね」と揶揄され、女性は「嫁」としての役割を背負わされがちだ。「お婿さんだからかわいそう」「お嫁さんだから名前を変えて当然」悪気はなくても、勝手に貼ったレッテルで誰かの社会的立場を決めつけることでやはりその人の人権を蔑ろにしているのではないだろうかとは私は感じている。

間違った思い込みを誰かにぶつけること、それが「差別」だと思う。そして差別意識は人権の無視に他ならない。選択的夫婦別姓についての議論もこれからますます必要になるだろう。それと同時に、夫婦がどちらの姓を選んでもそれが当たり前になるよう、社会の成熟を促すことも急務だ。

勿論私だって、中学生女子的「好きな人の苗字になりたい」も素敵な気持ちだと思う。でも苗字がどちらでも、将来のパートナーと私はどんな時も対等でいたい。だからまずは私から、偏見を含んだ言葉を人に向けないこと。間違った思い込みをしていないか常に見直すこと。私の夢を応援してくれる周りの友達にも、私の考えていることを伝えていこう、と思っている。

第40回全国中学生人権作文コンテスト 文部科学大臣賞